

## 人形

川端久温

私の家には、いくつかの人形が和室にかざられています。私の妹は、そのいくつかある人形が可愛く見えるらしく、絵を描くことが好きで絵が上手な妹は、毎日のように人形の絵を描いていました。

ですが、私にはとても可愛いようには見えません。むしろ、不気味に見えて仕方ありませんでした。私は、あまりその人形が好きではないので、和室に入ることがほとんどありませんでした。

ある日、妹に引つ張られ、私は妹の部屋に連れて行かれました。すると、妹は人形の絵を指さして、真つ青な顔で

「ねえ、人形の髪の毛つてのびるものだったけ？」

と聞いてきました。（そんなわけないでしょ）と思いつながら絵を見てみました。すると、日に日に真ん中の人形の髪の毛だけがのびていました。妹のかき間違いであったんじゃないかと思い、和室に行っていました。すると、真ん中の人形は昨日描いていた絵よりも髪がのびてい

ました。気味が悪いと思い、妹にも自分と室に行かないようにしろと言っておきました。さらに奇妙なことが起きたのはその晩からでした。

父も母も寝た頃に毎晩、人形が一人で移動しているかのように妹の部屋の前に立っています。もちろん髪ものびながら。もどしても、晩には必ず妹の部屋の前に立っています。父も母も人形を動かしていません。そんな奇妙なことが二週間ほど続き、その次の日に、妹は冷たくなっていました。人形は妹のとなりにいました。誰かに殺されたあとがなく、自殺に使われたものも不明。死因は不明でした。

おそう式が終わり、家に帰って人形を見ると、人形の髪の毛は元にもどっていました。人形があったのは、私の部屋の前でした。

ある四大家族が死因が不明で一人ずつなくなっていくという事件が発生した。なくなった方の近くには人形があるらしい。死因不明の事件が多発し、一〇〇人ほどの死者が出ると、事件も人形もなくなっていました。